埼玉県退職校長会
大里支部会報

おゝさと

第58号
（題字は支部長）
令和7年2月1日
発行者
植竹　豊

デジタル教科書を考える

副支部長　神谷　為義

先進的な取り組みをしているある小学校のことですが、授業で紙の教科書を使わないということを最近知りました。そのクラスの六年生の算数の教科書を見せてもらったら、一学期も終わりの時期にもかかわらず、新しいままだったのです。家での勉強に使わないのかと聞きましたら、宿題はすべてタブレットを開けば済む、ということでした。紙の教科書が、現場では不要になりつつあるのかと驚いた次第です。

去る九月五日の読売新聞に「デジタル教科書拡大案」という小さな記事が載りました。前日、文部科学省がデジタル教科書のあり方を検討する中央教育審議会のワーキンググループの初会合を開いたというもので、紙の教科書とデジタル教科書を今後どのように組み合わせるのかという記事でした。文部科学省が示した案は次の五案だといいます。

「全ての教科でデジタルに置き換える」「全て、または一部の教科で紙とデジタルを併用」「一部の学年または教科でデジタルに置き換える」「地域や学校ごとに紙かデジタルかを選択」「全教科デジタルとし、必要に応じて紙を使用」です。

これらの項目を見渡せば、ワーキンググループがデジタル教科書の拡大の検討なので当然のことですが、紙の教科書を使い続ける考えはなさそうです。この方針が続けられれば、いつになるかは分かりませんが、いつかはすべてデジタルに置き換わるものと思われてまいります。

今日、新聞の購読者減少や町の書店の廃業が問題となって、読書環境を整えることが課題になっています。もし紙の教科書を使わないで育った子供が大人になったら、そういう人達だけの時代になったら、町の書店どころか図書館さえ遺物になってしまうのではないかと、奇妙な近未来映画を想像してしまいます。

そんなことは杞憂かもしれません。しかし時代の動きに疎い私は、たとえデジタル化を進めるためにしても、教科書は紙ベースでそれを繰り返し読む教育を続けてほしいと思うのです。みなさんはどうお考えでしょうか。

「彩の国教育の日」協賛
第四十五回 大里地方教育推進協議会

令和六年十一月五日（火）「彩の国教育の日」協賛第四十五回大里地方教育推進協議会が、深谷市花園文化会館アドニスで開催された。参加者は総勢百十九名だった。

開会式では植竹豊支部長、森田豊校長会会長から、それぞれ挨拶があり、来賓の深谷市長 小島進様、深谷市教育委員会教育長 片桐雅之様、県退職校長会会長 新井俊一様から祝辞をいただいた。

続いて協議に入り、提案Ⅰは深谷市立川本北小学校 小谷野聖二校長から「魅力ある学校づくり」の推進のテーマで①家庭・地域との橋渡しとしての学校②魅力ある学校・魅力ある教師の存在を柱にして、学校の持てる力を最大限に活用していくことが子供たちの学力の向上や不登校の解消につながるとして、現在も魅力ある学校づくりに取り組み中であるとまとめていた。感想発表は深谷市立花園

裃姿の大澤先生

◀小谷野先生

◀大澤先生

中学校 佐藤秀昭校長が行った。

提案Ⅱは深谷班大澤誠一氏が「藤田雄山貞資」のテーマで

①「藤田雄山貞資」について

②「藤田雄山貞資先生顕彰会」について

③退職後の生き方と社会貢献

の三つにまとめていた。

藤田雄山の歩み、和算を志した動機や指導者やライバルとの出会い、「和算と日本の発展」等興味を引くように発表者は袴の衣裳で物語調に発表を行った。感想発表は深谷班の松本浩氏が行った。

指導講評は、北部教育事務所所長 長谷部巧様から二つの発表が県の第四期の教育振興基本計画の施策のどこにリンクしているのかを注視して聞かせていただいたとのこと。二つの発表とも好評をいただき、そのあと、今後の教育の動向についてのお話をいただいた。

（文責　福島辰夫）

感　想

共育！情熱！余韻！決意

渋沢栄一翁一万円札発行の年、深谷市花園文化会館にて、第四十五回の協議会が開かれた。

提案Ⅰは深谷市立川本北小学校の小谷野聖二校長が行った。配布された発表資料には本人を含め四十名ほどの顔写真が載せられていた。教職員・学校関係者等と共に歩む校長の姿を感じた。

特に、学級担任の七十五％が二十～三十代とのことで、校長のリーダーシップのもと、様々な方策を実施し、若手教員・児童を育成し、魅力ある学校づくりが進められていることを感じた。

提案Ⅱは深谷班の大澤誠一氏が行った。袴姿での登場に会場はどっと沸いた。氏は藤田雄山貞資顕彰会会長であり、その会を運営し、また川本地区小中学校で雄山の講演会を実施し、郷土の偉人を知らしめ、またその郷土に誇りを持てるよう取り組んでいる。

発表の後半で退職後の生き方と元校長の社会的役割について話され、ラストには中島みゆきのヘッドライト・テールライトの曲が流れた。「旅はまだ終わらない」の歌詞に、現役校長も我々も意を新たにした。

（文責　鶴間信好）

随　想

人生の基礎は小学校教育

熊谷東　並木　茂

この頃自分では意識しなかったが、急に体の動きが思わしくないと感じるようになった。

人生五十年と言われたことが最近になって実感として受け止められるのである。正に人生の終着駅に近付いた合図かもしれない。

ここで私の小学生時代を少し振返ってみたいと思う。当時の子供の遊びと云えば戦争ごっこやチャンバラなどが主流であり、冬の日溜りで馬乗り、鬼ごっこなどで走り回っていた。しかもこれらの遊びには勝敗がつきものであった。学校では、戦争が拡大するにつれ教材や教育活動に戦争に関係することが徐々に取り入れられていった。

例えば修身や国語の教材に爆弾を抱えた三人の兵士が敵陣に突入して戦果をあげた。肉弾三勇士として称えられた。次に、心に強く残っているものの一つに日露戦争時の黄海海戦において、掃海艇の指揮官広瀬中佐は、部下の杉野兵曹長と共に被弾して傾いた艦から脱出しようとしたが杉野の姿が見当たらず中佐は暗闇の中、「杉野～～」と連呼して捜しても発見できず艦と共に没した。我が身を顧みず愛国心、任務に忠実な責任感の鑑として語り継がれ音楽の唱歌としても習い今でも覚えている。体育では頑健な身体づくりと頑張り抜く気力や根性を育成する精神教育の一環として重視された。

戦争のため日常生活は制約され、物資の不足、食料も十分確保できず耐乏生活を余儀なくされた。遂に国力を使い果し終戦となった。その後、生活は一層苦しくなったが明るい希望を持って弛まぬ努力により、今や「人生百年時代」と耳にすることがある。これからは、一層健康に留意して人生を全うしていきたいと思っている。

元気をくれる初孫

熊谷中央　林　健次

毎朝、スマホに向かって、おはようと声を掛けている自分がいる。相手は、待ち受け画面に現れる初

孫である。

同年代の知り合いには高校生にもなる孫がいる状況で正直、自分が孫に会うことは無理かなと思っていた。ところが、今年の正月、帰って来た次女が私のプレゼントは「これ」と言って、数枚の写真を差し出した。それは、超音波写真に写る赤ん坊であった。諦め掛けていたものが突然現れ、戸惑いながらも楽しいこれからの人生を想像させた。そして娘の安産を祈った。

臨月に入ると、通院やら何やらと手助けに、夫婦して娘の住む東京へ出掛けることもあつた。ベビーカーやチャイルドシート等、これがいいんだよねと言う娘の言葉に負けて、まだ見ぬ孫なのについ買ってしまう。妻はまだ早いというのに既に甘い爺さんになっていた。出産日は、我が家総出で孫・姪となる女子の誕生を祝った。

以来一ヶ月毎に誕生祝いと称して、次女宅に我が家全員が集合している。今まで家族五人が揃うことは滅多にできないことであったのに孫の誕生が一変させたのである。

スマホには孫のアルバムが出来ており、成長の過程が随時アップされる。その度に夫婦で一喜一憂している。時々、娘からワンオペになるので来て欲しいと頼まれれば、好きなゴルフをキャンセルしてでも喜んで出掛けてしまう。行けば、孫が抱けるのである。

妻が突然の病魔に襲われ、暗澹たる日々だが、孫に元気をもらい、快復に向け共に闘っている。

感謝・孫の成長・健康

熊谷西　細野　茂子

定年退職後、再任用で六年間を市の教育相談窓口で務めさせていただき感謝の日々を過ごした。

昨年、第二の退職祝として、娘が旅行を計画してくれた。

夫と私の母、妹、子供、孫と私の四世代、十二人で出かけた。

車二台、運転手は、長女の夫と二十歳の孫。孫は運転の練習をしたいと自ら手を挙げたのだった。

急な坂道もあり、さすがに緊張した様子ではあったが、九十五歳の母も安心して乗っていられたのでよかった。

ホテルの中では、常に孫や子供達が母の世話をしてくれた。よく気付く姿に成長を感じ嬉しかった。

次の日、七人で散歩をしていると、先頭を歩いていた次女が、「おばあちゃんが転んだ。」と、叫んだ。

見ると、高齢の御婦人がバスから降りる時につまずいた様で、うずくまるように椅子に腰かけていた。その前を通りかかると、膝からかなりの出血をしていた。直ぐに本人の了承を得て息子に一一九番通報をしてもらった。止血も妹と交代でした。

救急車からの電話でけが人の年齢を聞かれた息子は、「八十？」と言いかけたが、本人に確認をしたところ、「六十五歳」と答えたので、妹と顔を見合わせて驚いてしまった。なんと、私より若い方だった。

救急車が到着するまで見守り、ホテルに戻った。

このことがあり、自分の健康について考えさせられた。日々、計画的に運動を取り入れて健康寿命を伸ばし、周りに迷惑をかけないようにしようと。そして、これからもずっと、みんなで一緒に、世代を超えた旅行ができるようにと。

佐久市　バルーンフェスティバル

平和を願い、活動する時代

熊谷南　原口　一明

「靖国神社が近いから、寄っていく？」

「……寄らないで帰ろう。」

これは兄から聞いた話であるが、兄の大学入学式が日本武道館で行われた時の父と兄の会話である。

当時、小学校六年生だった私は、「せっかく靖国神社の近くまで来たのに、なぜ行かなかったのかな

秩父市　川瀬祭り

あ。戦友がたくさん戦死しているのに。」と合点がいかなかった。

父は私たち子供には殆んど語ることはなかったが、昭和十二年の日中戦争勃発と同時に中国北部に派遣され、更に南部に転戦し、三年七ケ月駐留したそうである。しかし、母には戦争の悲惨な状況を話していたようだ。その後、太平洋戦争が始まり、二度召集され、昭和二十年三月は千葉の浦安にいて、東京大空襲の被害を目の当たりにした事は私にも話してくれたが、その時の父の「俺たち兵隊は覚悟の上だが……。」という言葉と涙を忘れることはできない。父は普段はとても穏やかであったが、酒が入ると人が変わったように投げやりな発言をすることがあった。今思うに、あの父の行動は戦争によるＰＴＳＤ＝心的外傷後ストレス障害ではなかったかと。尊い命を奪われること程、辛く悲しいことはないが、戦争によって心身に傷を負い、通常の生活を送ることができない人々がいることを忘れてはいけない。

世界では、現在でも戦争によって大切な命が奪われ、人々が傷ついている。何とかならないものかと願うばかりであるが、日本被団協の活動がノーベル平和賞を受賞した事は前途への光明である。私たちは平和を願い、活動しなければならないと考える。

不登校への思い
―学校や教師にできることがまだありそうです―

熊谷北　原口　政明

仕事から離れた随想にしたいところですが、自分の視野の狭さから、仕事に関わる内容とさせていただきます。

先日、小中学校の不登校数が約三十五万人との発表があり、想像はしておりましたが驚きをかくせません。

私は、教員の出だしが寄居養護学校であり、七年間、登校拒否で悩む子供たちと楽しい毎日を過ごしていました。そんな生活を送る中で、いつしか不登校の課題は私のライフワークとなっていきました。四十三年間、仕事場は変わっても仕事の中心の一つとして不登校を位置付けてきました。市の指導主事としては、「不登校で悩む子どもを減らす」取り組みに関わらせていただきました。一定の成果を上げることができ、全国にその実践も広がりました。この後、十年ほどは不登校が急増することはなかったと思います。

その後、国は不登校への方針を、「不登校は問題ではない」「学びの場を確保する必要がある」とし、「学校に戻ることを前提としない方針を打ち出した」などと現場で受け取られることもありました。また、コロナ禍と重なり、家庭から子供を学校に押し出す力や子供の人間関係や我慢する力なども下がりました。そんな中、不登校数の増加は憂慮すべき状況となっています。

私は、子供たちへの関わりは教師と子供が信頼関係を築き、「おもしろい授業」をし、学校や学級をあたたかくして、心の風邪をひきそうな子にやさしく接していけばいいと考えています。そして同僚性を大事にして、チーム学校となって実践していけばいいと思います。

学校が不登校への方針をぶれずに定め、チーム学校で子供に関わっていけばいいのではないでしょうか。

創造的に楽しめる場づくり

深谷中　強瀬　誠

ひょんなことから、今ではライフワークになりそうなことがある。それは九年前、地元公民館の仕事をしていたときに、Ｋ館長から相談されたことに始まる。

当時、利用者の高齢化と登録団体の減少が進み、公民館利用者が年々減る状況が課題となっていた。「何か良いアイデアはないですか。」という館長の言葉に、その頃人気を博していた、でんじろう先生の科学実験のような子供向けの科学体験講座を提案した。「面白い、やりましょう。」と館長は即座に決断し、企画を私に任せてくれた。

講座名はキッズサイエンス「おもしろ科学教室」とし、対象は地元の小学校一年生から六年生。低学年の子には難しい作業を伴うこ

ともあるので、親に同伴してもらうことにした。子供達が創造的に楽しめる場づくりにもこだわった。

参加した親子は、製作した物を動かしたり、試したり、比べたり、改善したりする活動に熱中している。親が子より夢中になってしまうことさえある。活動の中で何かを感じたり発見したりしてくれればそれで十分。今後の活動の拡がりにむしろ期待している。

今年で八年目。続けられたのは、指導者の先生をはじめ、公民館や学校、地域の青少年健全育成会、社会福祉協議会の協力・支援のお蔭である。二十回を越えたがあと何回できるか。今は気力・体力が続くまでとしておきたい。

第二の人生

深谷中　黒澤　正之

本年度から初任者指導教諭として、初任者五名の指導に当たっております。

週四日の勤務となり、時間的余裕も生まれ、余暇も充実しております。

現役時代から続けている趣味の一つに、早朝のジョギングがあります。自宅から我氏族の祭神若宮八幡宮を参拝し、岡部駅から山間部のゴルフ場、そして父の墓前を巡る十一キロを走り、私の一日が始まります。

休日の殆どは畑に繰り出し、野菜を栽培したり果物を育樹したりして、自然と親しんでおります。畑で入れるコーヒーは格別で、心も身体も満たされます。

さらに、至福の時間は古都巡りです。奈良、京都、鎌倉の三都巡りは、人生を豊かにしてくれています。

奈良興福寺の仏頭や阿修羅像の存在感に毎回圧倒されます。国立博物館内の数多の諸仏は圧巻で、釘付けにされます。花の都京都では春夏秋冬魅了されます。早朝の西本願寺の声明、三十三間堂の十一面千手千眼観音菩薩像は言うに及ばず、二十八部衆や風神雷神に心奪われます。さらに木津川の浄瑠璃寺には、九体阿弥陀如来像が控えており、庭園とともに極楽浄土の世界を彷彿させてくれます。現世の喜びは、曹源池庭園を望む天龍寺篩月（しげつ）で戴く精進料理です。身体も心も洗われます。

電車に乗って二時間でタイムスリップできる鎌倉は、我氏族とも縁が深く、身近に感じる場所です。年に何度も訪れる場所で、正月初詣は恒例となっております。ついに先日も私の二人の兄夫婦計六名で円覚寺、明月院、建長寺から鶴岡八幡宮そして報国寺に杉本寺を巡って参りました。古都巡礼は、私の人生を芳醇にしてくれています。

大人の修学旅行

深谷南　持田　倫武

先日、熱海にあるＭＯＡ美術館に尾形光琳の「紅白梅図屏風」（国宝）と「風神雷神図屏風」（重文）を見に行ってきました。この二点の作品が一堂に会して展観されるのは三十九年ぶりとのことでしたので、「生きているうちに、もうこんなチャンスは二度とない。」との思いで久しぶりに熱海を訪れました。

さすがに近年人気の熱海、急な思いつきだったこともあり宿の手配に手間取りましたが、無事に宿の確保に成功、一日目江ノ島、二日目熱海の予定で大人の修学旅行に出発しました。

圏央道が渋滞していて思ったよりも時間がかかってしまいましたが、花園インターチェンジに近い我が家からは、江ノ島は時間的にはとても近い（心理的にはちょっと距離がありますが）存在になりました。ありがたいものです。残念ながら雲が重く垂れこめていて富士山を見ることはできませんでしたが、久しぶりの江ノ島を堪能しました。

「紅白梅図屏風」と「風神雷神図屏風」は流石の存在感で終始圧倒されました。（「国宝」の言葉に圧倒されただけなのかもしれませんが…）

ところで、我が埼玉県にはいくつ国宝があるかご存じでしょうか？歓喜院聖天堂、太刀、短刀、法華経一品経、稲荷山古墳出土鉄剣の五点です。

そこで気づきました。私はまだ埼玉県の国宝を全て見ていませんでした。まずは埼玉県の国宝の参観をコンプリート、そしてこれからもたくさんの国宝を見ていきたいと思っています。

八尾町　おわら風の盆

スイッチング

寄居　横田　茂男

熊谷市のスポーツ・文化村「くまぴあ」で勤務する機会をいただいています。スポーツや文化、余暇活動等を行う方々に施設の貸出しをしており、アリーナは児童生徒美術展の会場となっています。百名受け入れ可能な宿泊所は全国各地からの利用があります。五十名を超える職員が協力して業務に関わっています。施設の管理、教委との連携等、業務は校長時代と重なる部分がありますが、成長が見られず恥ずかしい限りです。

施設には、ロケ地としての顔があり、映画やドラマ、MV（ミュージックビデオ）、CM等の撮影が不定期に入ります。日向坂のMV、USJのCMの撮影もありました。コスプレの撮影も増えています。ドラマ撮影では、複雑な人間関係をテーマにしたものが多いです。仮面ライダーシリーズでは、歴代のライダーが通った高校と設定されています。ライダーの高校時代の映像が必要となった際、ライダーはバスに揺られてやってきます。

ロケ弁をいただくことがあります。三食も続けると、撮影関係の一人かと錯覚を覚えることがあります。台風でキャストが新幹線内で足止めになった際、職員が代理でCMに出演したことがありました。「それってお前か？」と、ここは突っ込みのタイミングですが、その時の私は、出演する自信がありませんでした。

かつて教頭として勤務していた小学校に、芸能界を目指していた児童がいました。それから十年後、彼女がドラマ撮影に訪れていました。撮影現場で彼女に話しかけると、とびきりの笑顔を返してくれました。素敵でした。代理でCMに主演しなくてよかったと深く反省しました。

同好会だより

写真同好会

斉藤　重利

写真同好会の会員数は、現在七名です。主な活動内容は、年間四～五回の合評会です。ここでは、各会員が作品を持ち寄り、撮影の観点や撮影時の状況を説明します。それが終わると、他の会員から感想や意見、質問が述べられます。他の会員からの感想も参考になりますが、ベテラン会員からの貴重なアドバイスも寄せられ、作品技術の向上に資する事が出来ます。

写真同好会の会員数も数年前から比較すると、少なくなってしまいました。

スマホで撮るのも良し、デジタルカメラで撮るのも良し、撮影対象は自宅近くの自然事象や祭りなどから始めて、徐々に技術の向上を図るという方法もあります。

写真に興味がある方は、私どもの同好会に加わりませんか。

囲碁同好会

深田　忠雄

◎五月二十五日　春季大会
　会員の出席が少なく、練習会を楽しみました。

◎十一月九日　秋季大会成績
　優　勝　山室鐵夫（熊谷西）
　準優勝　飛田典保（熊谷西）

プロ棋士の集まり「日本棋院」は、創立百年を迎え、益々隆盛を誇っています。

私達の同好会も、当初は、三十人以上の会員が、熊谷の箱田ふれあいセンターで、月二回の土曜日、月例会で、白黒の石音を響かせて囲碁対局を楽しみました。

大会は、春秋の年二回、賞品を提供し、鍛えた腕を競いました。

それが、コロナ禍で会場借用できず、会員の高齢化が進み、「くまぴあ」で年二回大会開催のみ。

来年五月、大会できるのかな？

絵画同好会

原口　一明

絵画同好会の主な活動は、風景画、静物画、人物画制作です。また、十月には、熊谷市民ギャラリーにて水墨画同好会の皆様と合同の作品展を開催しています。

さて、絵画制作の醍醐味は、何と言っても、作品に集中できることです。そして、同好会の方々と作品について、お互いにコメントを交しながら、様々な話題の語らいをすることが最大の楽しみです。

経験者だけでなく、絵を描くことに興味があって活動している方々もおります。油彩画、水彩画、アクリル画などに興味のある方、どうぞ気軽に活動を覗いてみてください。いつまでも若い気持ちを持って作品制作に取り組むことができます。是非一緒に活動してみませんか。

水墨画同好会

小林　芳雄

同好会として平成十八年会員六名で発足し多くは初心者。故塚越茂先生の指導のもと、深谷公民館で毎月第二・三月曜日の学習会にて黒と白の織りなす変化に惹かれ、無心に作品に取り組んで来ました。

高齢化が進み学習会が難しくなり、各自作品制作に取り組むことになりましたが、絵画同好会の好意により作品展示会に毎年参加させて頂いています。人生百年の時代、退職後なんの趣味もない私でしたが、現在地域の仲間と水墨画を楽しんでいます。軽い気持ちで水墨画をはじめてみませんか。

訃報　令和六年

氏名	年齢	逝去月日	地区名
神田　一	93	12・10（令和5年）	熊谷北
小林　弘	91	6・30	寄居
飛田　房雄	78	7・5	熊谷北
能見　忠久	77	7・11	熊谷中
卜部　勝孝	85	8・7	深谷中
瀧澤英一郎	94	9・30	熊谷中
内田　直	98	11・22	熊谷北
小林　要	85	12・18	深谷北

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

役員・理事研修会

渋沢栄一とふるさと・深谷

深谷市八基公民館にて、令和六年九月八日(日)に「渋沢栄一とふるさと・深谷」を演題に、元八基公民館長 澤出晃越様による講演会及び施設見学会が行われました。

先ず栄一翁の「常に次の世に何が必要かを考えていた」ということのお話がありました。例えば、情報の流通で大きな役割を担う新聞の発行では、大量の紙が必要になることから製紙工場を設立したこと、また、今後増加する諸外国の要人をもてなす良質な宿泊施設としてホテルを建設したことなどです。

次に栄一翁の「余が過去の生涯の全ては論語に拠って訓育されてきた」との言葉が紹介されました。その上で本研修会の中心となる「なぜ深谷に渋沢栄一が誕生したか」という課題に、「地理的要因」「社会的要因」「経済的要因」「個人的資質」の視点からお話をいただきました。

「地理的要因」では、深谷宿と利根川の中瀬河岸により流通の大動脈だったこと。「社会的要因」では、幕藩体制の動揺や岡部藩の安定的な支配がなされていたこと。「経済的要因」では、藍玉生産や養蚕による裕福な地域であったこと等が紹介されました。

今回の研修を通して新たな視点から理解を深めると共に、渋沢栄一記念館の見学でさらに栄一翁への興味関心が高まる機会となりました。

（文責　持田倫武）

第二十六回 秋季親睦ゴルフ大会

令和六年十一月二十日（水）、上里ゴルフ場に十六名の参加者が集まり秋季親睦ゴルフ大会を開催しました。

最高気温が八度、曇り時々雨、今年初めて吐く息が白くなるような厳しい気象条件下ではありましたが、会話の弾んだ一日でした。

大会の結果は、次のとおりです。

・優　勝　吉岡　克二
・準　優　勝　島﨑　一雄
・第　三　位　加藤　眞司
・ベスグロ　加藤　眞司

今回初めて参加した方もいて、久しぶりの再会に盛り上がりました。来年度も六月と十一月に計画する予定です。スコアは二の次、一緒にプレーを楽しみましょう。多くの皆様の参加をお待ちしています。

（文責　小林晃一）

挿入写真の「祭り」について

写真同好会の飯島修先生に提供していただきました。富士山や祭りを題材に意欲的に活動されています。「カメラを向けると地域の伝統がひしひしと伝わってきます」とのコメントをいただきました。

みんなの広場

俳句

竹林の四季

寄居　石澤　邦彦

春雪の闇に青竹割るる音
鍬入るるたびに一息筍掘り
百幹の竹震はせて蝉時雨
竹伐って新しき風生まれけり
竹百幹初冬の光撥ね返す

絵画

「里山の小径」
深谷中　高橋　明美

「ゆ　り」　寄居　岡本　典子

写真

「早朝の山中湖畔」熊谷西　瀧口　裕史

「妻沼聖天山
秋季例大祭　火渡り」
熊谷南　飯島　修

水墨画

「烏　瓜」
熊谷北　小林　芳雄
（第7回日美展
臨画の部佳作）

編集後記

編集会議では、筆者の思いが適切に伝わるよう文章の推敲や全体を通した表記の統一、さらに印刷ミスが無いかなどの作業を丁寧に進めてきました。このような活動により過去にも多くの方々が携わってきた広報紙「おゝさと」のバックナンバーは、埼玉県退職校長会のホームページでご覧になれます。他支部のこれまでの活動も紹介されていますので、データベースとしても活用できます。県や各支部、会員が相互につながる広報紙作りのために、これからも皆様のご協力をお願い致します。

令和６年度
広報部員

福島　裕	（熊谷北）
菊池　正彦	（深谷中）
秋元　敏行	（熊谷東）
新井　英和	（熊谷中央）
稲葉　俊昌	（熊谷西）
原口　一明	（熊谷南）
内田　一郎	（熊谷北）
小柳　百代	（深谷北）
茂木　隆資	（深谷南）
丹羽　大恭	（寄　居）

埼玉県退職校長会大里支部会報
（第五十八号）
発　行　令和七年二月一日
発行者　支部長　植竹　豊
印刷所　株式会社　博文社
熊谷市本石一－一三四
〇四八（五二一）三〇六三